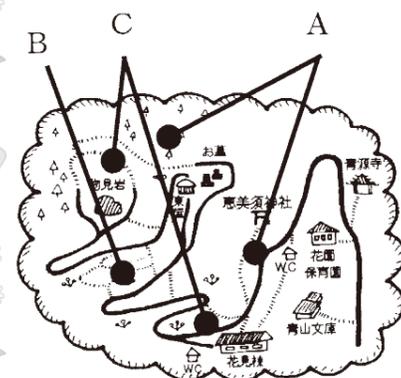


ポタニカルニュース ～牧野公園情報～



▲サワフジバカマとアサギマダラ蝶 (花：10～11月上旬)

◆秋の花盛りシーズン 到来です！

牧野公園ではただいま秋の花盛りシーズン到来中です。秋咲きの草花が続々と咲き誇り、桜の季節とはまた違った賑やかさを演出しています。花に引き寄せられてやってくる、美しいアサギマダラなどの蝶もたくさん見ることが出来ます！

みなさん、どうぞ秋の行楽に牧野公園へお越し下さい☆

◆10月に見頃のお花たち♪

A. ジョウロウホトトギス (上臈杜鵑草) ユリ科ホトトギス属。石灰岩地に見られる高岡郡固有の植物。和名は牧野博士命名。花：9月下旬～10月中旬頃。



B. リンドウ(竜胆) リンドウ科リンドウ属。根は薬用になり、苦味が強い。稀に白花があり、白花は牧野博士命名種。花：10～11月頃。



C. タマムラサキ(玉紫) ヒガンバナ科ネギ属。葉がニラのようにやや幅が広く、偏平になる。牧野博士命名種。花：10月中旬～11月中旬頃。



まちまるごと植物園 ～まちの植物情報～

◆ロゴマーク表彰式♪

8月21日、まちまるごと植物園のロゴマーク表彰式が牧野公園で行われました。入賞者のうち、3名の方にご参加いただきました。表彰式後は記念植栽を行い、さらにお昼は、はなもりC-LOVEのメンバーが作った特製お弁当もおもてなしをして、賑やかなひとときを過ごしました♪



◆さくらさくアイス寄付贈呈式♪

8月27日、「さくらさくアイス寄付贈呈式」が役場の会議室で行われました。今年春に販売された『牧野さんのさくらさくアイス』の売り上げの一部を、『株式会社フタガミ・佐川町 牧野博士がとりもつ協働事業』として、牧野公園の整備活動費に活用してほしいと、(株)フタガミさんから、佐川町に寄付を頂きました。式では寄付の目録を頂戴し、記念品として、コースターセット(まちまるごと植物園ロゴマーク、佐川町や牧野博士ゆかりの植物マークをプリントしたものを☆)を贈呈しました。いただいた寄付は大切に活用させていただきます。



青山文庫だより

新しい展示がはじまります

今からちょうど150年前の明治2(1869)年。明治維新を迎え、世の中の仕組みが大きく変化する中、この年の1月には、薩摩・長州・土佐・肥前の4藩主が一緒に版籍奉還を願い出します。これは、江戸時代の藩を解体するために、「版(土地)所領」と「籍(人)所領」を藩主たちが天皇に返上しようとしたもので、これに多くの藩が追従し、6月には、版籍奉還を願い出なかった少数の藩に対し版籍奉還が命令され、旧体制の藩が消滅し(この時、「土佐藩」は「高知藩」となり、「藩主」は「知藩主」となります)、天皇のもと日本が新しく編成される事となります。

歴史の授業で習ったこの出来事、佐川の歴史にとっても大きな影響を与えた出来事なのです。どういふ事かという、版籍奉還が決定する少し前の3月に、版籍奉還を前提として、最後の土佐藩主・山内豊範が藩政の大改革を宣言します。

この大改革によって、土佐藩から家臣たちに所領として与えられていた土地と人が、すべて土佐藩に返納され、加えて、佐川深尾家のような家老家に直接雇われていたような武士たち(厳密に言えば、土佐藩士ではない武士たち)

す)も、すべて土佐藩(結果的には高知藩)に雇われる事となり、再編成されます。

これは、江戸時代を通じて佐川領を治めていた佐川深尾家にとっては、領知・領民・家臣のすべてを失った事となり、さらにそれまで領主として佐川土居での住居が認められていましたが、この大改革では、山内家の家臣として再編成されるすべての武士たちが高知城下に住む事が強要されます。

当時の深尾家当主・深尾重先は、急ぎ高知城下に移住する必要が生じたので、佐川を跡継の深尾重愛に任せ、7月には佐川を去ります。この4カ月後の11月には、残務整理を終えた重愛も佐川を去ります。これにより、佐川土居が廃止となり、佐川領自体が消滅します。

日本史上では、明治維新が大きな出来事でしょうが、佐川にとっては、この佐川領の終焉こそが、より大きな出来事だったのではないのでしょうか。今回の特別展では、この大きな出来事の過程を追いながら、佐川領がどのように形成され、そして終焉を迎えたかを紹介します。

〇特別展「佐川領の終焉」
〇秋の企画展「志士たちの遺墨」
10月5日(土)～11月13日(月・祝)
※10月1日(火)から4日(金)は展示替のため臨時休館いたします。

〇秋の企画展「志士たちの遺墨」
10月5日(土)～11月13日(月・祝)
※10月1日(火)から4日(金)は展示替のため臨時休館いたします。

文芸

川柳

地図に無い 近道をして 遅刻する
メリツトの 無い言い訳に 腹が減る
いざとなり 全てを忘れ 耳学問
三戸岡 浄 (ペンネーム)

俳句

白煙を 空に残して 花火果つ
味元 佐知子
老農婦 依るや日陰の 草むしり
三戸岡 浄 (ペンネーム)

短歌

コスモスの 花が咲くまで 杖なしで
歩いてみたい 宮前公園
野村 幸恵
よさこいの リズムに乗りて 豆腐屋の
主人(あるじ)が舞へり 銀髪乱し
川底の 石のとりどり色冴えぬ
台風過ぎてまたのまたの日
黒岩 英起
雲間から 天使の梯子降りそそぎ
光の中へと誘われゆく
福寿草 (ペンネーム)

川柳・俳句・短歌を広報さかわに掲載してみませんか？

※12月号への掲載を希望される方は11月1日(金)まで
投稿方法：氏名・住所・電話番号と、川柳・俳句・短歌のいずれの部門かをご記入のうえ封書やはがき、ファックスにてお送りください。応募多数の場合は抽選により掲載します。(今回は応募多数につき、抽選させていただきました。)